

## 第3回富良野市農政審議会 会議録

日 時：令和5年10月24日（火）18:30～20:30

場 所：富良野市複合庁舎1階 文化会館会議室 B,C

出席委員：小師和彦委員 藤野啓一郎委員 杉村鉄也委員

池田勝委員 高田忠明委員 小笠原博委員

鶴井敦士委員 桑折裕美子委員 林真佐子

狩野康弘委員 東山寛委員

一宮委員（代理出席石垣） 本谷志雅子委員

※欠席 岡田憲雄委員、菊地邦之委員

事務局：川上経済部長 西出農林課主幹

中井担い手育成係長 小尾畜産係長

西尾農業振興係長 小野塚係員

### 1. 開 会（司会：西尾）

### 2. 委員長挨拶（小師委員長）

- ・農作物で全般的によかったのはスイカだけ。それ以外は厳しい、米は品質が悪い。作況指数は平年並み。
- ・酪農関係は夏の暑さや、経費増で大変苦労されている。
- ・農業は天候、政治等に左右されるのが常、みなさんの栄都を結集しながら来年に向けて大きな期待を持ちながら進んでほしい。
- ・本日の審議が大詰めの話になってくるので、忌憚のない意見等お願いしたい。

### 3. 審 議

（1）新たな「富良野市農業及び農村基本計画」における取組内容について

#### ●小師委員長

事務局より資料1・2について説明願います。

#### ●事務局 西尾

事務局より以下の点を説明した。

- ・資料2は、庁内策定委員会での意見を踏まえ、施策の内容について記載。（赤字箇所）
- ・資料1は、資料2の内容を概要版としてまとめた。第3次基本計画の検証・情勢の変化、課題等を整理した中で、第4次基本計画の考え方を示した。重点としては、1. 多様な人材の確保・育成、2. 持続可能な生産基盤、3. 生産性の高い農業・農村、4. ふらのブランドの確立を掲げた。

各施策に対する方向性を示し、それに対しての重点取組について内容を説明。

#### ●小師委員長

各委員から忌憚のない意見をお願いしたい。

●小師委員長

働き手不足は深刻で外国人労働者を積極的に活用せざるを得ない状況となっており、施策の中で環境整備（市の遊休資産の活用）を取り組みとしているが、JA 組合長が先週インドネシアを訪問してきて、その話の中で派遣資格基準の中に日本語が必須となっている。500人試験を受けて130人しか受からないため、多く派遣したいが出せない状況になっている。派遣後も日本語を学習する場が必要と考える。企業でも負担になっている。ソフトの取り組みをあってもよいのでは。

●藤野副委員長

日本の研修生について、以前は個人の農家に入って1日を共にする研修するスタイルだったが、今は市内の空いている施設、住宅を使って仕事以外は別にするスタイルとなっている。研修だけで富良野に残らなくても情報を発信してもらえることで次につながっていくと思っている。

●川上経済部長

人材確保について、各種業界と意見交換を実施し施策を練っている。外国人の雇用は農業だけでなく中小企業においても市有財産活用の声もある。市に外国人雇用のノウハウがなく民間に学ぶところが必要。語学についても課題となっており、学ぶ機会、施設の要望もある。

●鶴井委員

言語は派遣時には勉強してくるが、日本に来てからは勉強しない。一緒にいる同じ国の人と話すため日本語は上達しない。休みの日に勉強する機会があればよいと思うが、時間を割いてまで勤めることはできない。

●川上経済部長

市内に住む外国人がここ半年くらいで約200人増えている。内訳は把握していないが観光や農業の分野が多いと思われる。

●小師委員長

既存公共財産の活用と外国人受入について庁内で揉んでほしい。

●NTT 東日本 石垣氏

農業担い手・作業員募集ソリューション事例の紹介 タイミー、おてつたび ほか

●小師委員長

・災害対策として、保険加入のみでなく排水対策が文言として必要ではないか。

→（池田委員）河川、用排水は保全会でお金を出して伐採している。獣の住処にもなる。

→（藤野副委員長）災害があると保全会で対応している。保全会は予算がないが対応を任されている。

→（小師委員長）基盤事業の記載があり、国営・道営事業も実施するが、暗渠の高さ（深さ）が取れない可能性がある。大雨が降ると溢れることが考えられる。

→（桑折委員）毎年、土砂上げを行っている。畑を良くしようとしても排水が悪いと良くならない。

→（本谷委員）たまった土砂の行き場に困っている。市内で置場がなく旭川までもっていかないと処理できず予算的に無理と言われた。

・鳥獣害対策として、駆除、柵の維持管理だけでなくハンターの育成、駆除した後の処理についても文言としてあってもよいのではないか。

→（西出主幹）市内意見交換会で出た意見として、ハンターの育成、報酬増、夜に撃てるような緩和策、河川の草木は鳥獣の隠れ場所になりそれを処理できれば減らせる、鹿柵や電牧の管理、電牧講習会があるとよい。ハンターの行政職（地域おこし協力隊など）をおけないか、など意見として出された。

→（池田委員）鹿柵の管理より、個体数の減が大事。獲る方にシフト。

・労働力確保、次世代の担い手確保について、後継者・子弟が就農したときのフォローアップが不足しているのではないか。一番の担い手は子弟への後継者であるため、学びやお金でも良いが文言として盛り込まれてもよいのではないか。

→（杉村委員）農地を動かすには若い人に対して中心に渡したいが意欲が薄いか、現状の経営で満足している。規模拡大に向けて意欲がほしい。多種多様な職業の人との関りや様々な農業経営の人と交流することが大事ではないか。

→（藤野副委員長）今の人は電話番号、住所も知らない。コミュニケーションで言えば、集落機能の活性化において、今はコミュニケーションをとる場がない。

それでは人が育たない。農業士も次が育たない。例えば富良野市農民運動会など市一体で農業を盛り上げることも必要だと思う。農家子弟も男の子に限らず女の子にも目を向けては。女性の農業経営者も増えてきている。

→（川上部長）前回、本谷委員が言っていたが、農業は楽しい、農業には夢があるということを若い人に伝えることが必要。

→（本谷委員）若い人の話を聞くことが必要。直接集めて聞いてみるもの良いのでは。

#### ●東山委員

今回の第4次計画の目玉となるものは何か。形に残るものがない。

→（藤野副委員長）富良野ブランドは第3次計画の目玉としていたが、メイドインフラノはいつの間にか敷居が高くなった。加工品に限ってしまっている。敷居が高いため農家の人は取り組まない。

→（小笠原委員）数年前までミニトマトのジュースを作っていた。加工は上富良野であったためメイドインフラノに登録できなかった。これを盛り上げるなら市内で加工できるシステムも考えていかないと、やりたくても関われないのが現状。

→（川上部長）加工の部分が課題となっているため、そこを強化する上でも補助金等を活用して加工設備を増やそうとしたがうまくいっていない。

→（小笠原委員）そこをクリアしないとメイドインフラノ事業は発展しない。  
→（藤野副委員長）富良野ブランドをつくるのであれば、違う視点でみていかないと  
いけない。農畜産物自体がブランドであり、そこを理解できていないでメイドイン  
フラノの名前だけにのっかって、誰も手をかけられない。自信を持って出せるも  
のはメイドインフラノでよいと思っている。認証するのは役所。富良野市の中心と  
なるものは、みんなメイドインフラノでよいと思っている。  
みんながスタートラインに立てていない。

→（小笠原委員）農業と商工の繋がりが薄いと感じる。レストランでメイドインフラノ  
のランチなど、農業者と商工が繋がりを持てるような場をつくるのもよいのでは。  
若い人達にも、そういった繋がりを持ってもらい、10年後、15年後、富良野を  
もっと盛り上げていけるようなシステムづくりが必要。

●東山委員

農福連携をするのであれば、生活困窮者や引きこもりなど含めて取り組むのがよい。  
その他、若い人の意見を聞いて意見をもらうこともよいのでは。

●小師委員長

今までの意見を聞いていると、次世代に向けては皆さんの思いが熱くなっているところなので、メインの取り組みでなくても何かやっていくことを検討してみてもどうか。

●狩野委員

次世代の担い手育成確保について、他の事例では若い人たちは集まって活動することを嫌ってはいない。グループ活動が停滞している中でも、従来のグループ活動や新たなグループ活動の動きができてきている。農業後継者だけでなく、JA、共済など農業関係機関の若い職員が農業を学ぶ機会と交流する機会を作っている。こうした他の地域を見てみると、決して若い人たちは集まることを嫌がってはいない。農業だけでなく、商業、工業へと幅を広げて、集まる目的も明確にしていくことも重要。

●小師委員長

今回出た意見を計画に盛り込むよう検討をしていただき、また、市内の若者からヒアリングすることもしてもよいのではと思う。審議会の開催が増えるかもしれないが委員皆様にはよろしく願いたい。以上で審議を終了する。

(2) その他

特になし

#### 4. スケジュール等

第4回審議会 12月中旬

→第4次計画のメインとなるものについて、練り直して次の審議会です。

→第4次富良野市農業及び農村基本計画（素案）の提示

再度審議が必要であれば第5回審議会も開催

#### 5. その他

ふらの未来農業 EXPO2023 の告知